

アレン<GF強化,難燃>, P080117J, 2013年3月11日

作成日2008年11月28日

改定日2013年3月11日

製品安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名	アレン<GF強化,難燃> 「該当物質含有銘柄」(対象銘柄名は添付表を御参照下さい)
会社名	三井化学株式会社
住所	東京都港区東新橋一丁目5番2号
担当部門	機能性コンパウンド事業部
電話番号	03-6253-3494
FAX番号	03-6253-4219
整理番号	P080117J

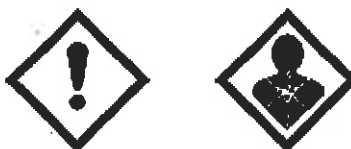
2. 危険有害性の要約

GHS分類			
【物理化学的危険性】			
火薬類	[分類対象外]	急性毒性(吸入・ガス)	[分類対象外]
可燃性・引火性ガス	[分類対象外]	急性毒性(吸入・蒸気)	[分類対象外]
可燃性・引火性エアゾール	[分類対象外]	急性毒性(吸入・粉塵)	[分類できない]
支燃性・酸化性ガス	[分類対象外]	急性毒性(吸入・ミスト)	[分類対象外]
高压ガス	[分類対象外]	皮膚腐食性・刺激性	[分類できない]
引火性液体	[分類対象外]	眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	[区分2]
可燃性固体	[分類できない]	呼吸器感作性	[分類できない]
自己反応性化学品	[分類対象外]	皮膚感作性	[分類できない]
自然発火性液体	[分類対象外]	生殖細胞変異原性	[分類できない]
自然発火性固体	[区分外]	発がん性	[区分2]
自己発熱性化学品	[分類できない]	生殖毒性	[分類できない]
水反応可燃性化学品	[分類できない]	特定標的臓器・全身毒性(単回暴露)	[区分3](気道刺激性)
酸化性液体	[分類対象外]	特定標的臓器・全身毒性(反復暴露)	[区分2](肺, 心血管系)
酸化性固体	[分類できない]	吸引性呼吸器有害性	[分類できない]
有機過酸化物	[分類対象外]		
金属腐食性物質	[分類できない]	【健康に対する有害性】	【環境に対する有害性】
		急性毒性(経口)	[区分外]
		急性毒性(経皮)	[区分外]
		水生環境急性有害性	[分類できない]
		水生環境慢性有害性	[分類できない]

7-レ<GF強化,難燃>, P080117J, 2013年3月11日

GHSラベル要素

【絵表示又はシンボル】



【注意喚起語】

警告

【危険有害性情報】

- ・ 強い眼刺激
- ・ 発がんのおそれの疑い
- ・ 呼吸器への刺激のおそれ
- ・ 長期にわたる, または, 反復暴露による肺, 心血管系の障害のおそれ

【注意書き】

【予防策】

- ・ 使用前に取扱説明書を入力し, すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- ・ 屋外または換気の良い場所でのみ使用し, 粉じん/煙を吸入しないこと。
- ・ 指定された個人用保護具(安全帽, 保護眼鏡, 保護面, 呼吸用保護具, 保護手袋, 保護衣, 保護靴など)を着用すること。
- ・ 取り扱った後, 手, 顔などをよく洗うこと。
- ・ 環境への放出を避けること。
- ・ 眼に入った場合は水で数分間洗い, コンタクトレンズ[®]を着用している場合は可能ならば外して洗浄を続け, 刺激が続く場合は医師の手当てを受けること。
- ・ 飲み込んだり, 吸入又は接触したか, 又は暴露の懸念がある場合, 気分が悪い時は医師の手当てを受けること。

【保管】

- ・ 容器を密閉して, 涼しい所/換気の良い所に施錠して保管すること。

【廃棄】

- ・ 内容物や容器を, 都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。
- ・ 使用済みの容器は, 他の用途に使用しないで適正に廃棄すること。

【対応】

- ・ 吸入した場合は空気の新鮮な場所に移して休息させ, 医師の手当てを受けさせること。

GHS分類に該当しない他の危険有害性

- ・ ペレットが床面に残ると, 滑る危険性がある。

重要な徴候

- ・ 高温熔融樹脂から発生するガスは, 目, 呼吸器系を刺激する。
- ・ 本製品の粉塵は, 目及び皮膚を刺激する恐れがある。

7-リンクGF強化、難燃>, P080117J, 2013年3月11日

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別 混合物

化学名又は一般名 ポリアミド樹脂組成物

化学特性 (化学式)	成分	CAS番号	濃度	官報公示整理番号 (化審法、安衛法)
非公開	ポリアミド樹脂	非公開	非公開	非公開
—	ガラス繊維	—	非公開	対象外
非公開	臭素系難燃剤	非公開	非公開	非公開
非公開	アンモン系難燃剤	<10% [注]	非公開	非公開
非公開	その他	非公開	非公開	非公開

[注] 含有量は銘柄により異なります(添付表参照)

4. 応急措置

- 吸入した場合** : 高温の熔融樹脂から発生するガスを多量に吸入した場合は、被災者を直ちに空気の新鮮な場所に移動する。
 症状変化が現れた場合には、直ちに医師に連絡する。
 呼吸していて嘔吐がある場合は、頭を横向きにする。
 呼吸が止まっている場合、又は呼吸が弱い場合には衣類を緩め、呼吸気道を確保した上で人工呼吸(又は、酸素吸入)を行う。
 身体を毛布などで覆い、保温して安静に保つ。
- 皮膚に付着した場合** : 汚染された衣類、靴などを速やかに脱ぐ。
 付着した製品を拭き取り、水又は微温湯で洗い流しながら石鹸を使って良く洗い落とす。
 外観に変化が見られたり痛みがある場合は、速やかに医師の手当てを受ける。
 熔融物が皮膚に付着した場合は、衣服の上から多量の水をかけて十分に冷却する。
 皮膚に張りついたポリマーや衣服は無理に剥がさないで、直ちに医師の手当てを受ける。
- 目に入った場合** : 直ちに清浄な水で数分間洗浄した後、眼科医の手当てを受ける。
 洗眼の際、まぶたを指で良く開いて、眼球、まぶたのすみずみまで水が行きわたるように洗浄する。
 コンタクトレンズを使用している場合は、固着していない限り、取り除いて洗浄する。
- 飲み込んだ場合** : 吐かせようとしてはならない。
 水で良く口の中を洗わせる。
 被災者に意識のない場合は、口から何も与えてはならない。
 保温して速やかに医師の手当てを受ける。
- 最も重要な徴候及び症状**: 高温熔融樹脂から発生するガスは、目、呼吸器系を刺激する。
 本製品の粉塵は、目及び皮膚を刺激する恐れがある。
- 応急措置をする者の保護**: 救助者は呼吸保護具、密閉ゴーグル、保護手袋などの適切な

7-レ<GF強化, 難燃>, P080117J, 2013年3月11日

保護具を着用する。

医師に対する特別な注意事項

治療上の指針：対症療法

5. 火災時の措置

- 消火剤 : 棒状水, 霧状水, 粉末, 二酸化炭素, 泡 (耐アルコール泡)
初期の火災には, 粉末, 二酸化炭素を用いる。
大規模火災の際には, 棒状水, 霧状水, 泡消火剤を用いる。
- 使ってはならない消火剤 : 特になし
- 火災時の特有の危険 : 当該製品は分子中に N, ハロゲン, Sb を含有しているため,
有害性 : 火災時に刺激性もしくは有毒なガスを放出する。
- 特定の消火方法 : 火災発生場所の周辺に, 関係者以外の立ち入りを禁止する。
危険なくできる時は, 燃焼の供給源を速やかに止める。
移動可能な容器は, 速やかに安全な場所に移す。
容器, 周囲の設備などに散水して冷却する。
消火活動は, 可能な限り風上から行う。
- 消火を行う者の保護 : 消火作業の際は, 状況に応じた保護具 (自給式呼吸器, 防火服, 防災面など) を必ず着用する。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項, 保護具及び緊急時措置 : 漏れた場所の周辺から人を退避させると共に, 有害性を知らせる。
漏出した場所の周辺にロープを張るなどして, 関係者以外の立ち入りを禁止する。
作業の際には保護具を着用し, この物質が皮膚に付着したり, 粉塵を吸入しないようにする。
風上から作業し, 風下の人を避難させる。
漏出時の処理を行う際には, 必ず呼吸保護具, 保護手袋, 保護眼鏡, 保護衣等を着用すること。
- 環境に対する注意事項 : 環境において長期間分解しないため, 環境を汚染する可能性がある。
流出した製品が河川等に排出され, 環境への影響を起ささないように注意する。
漏出物を直接に河川や下水に流してはいけない。
- 封じ込め及び浄化の方法・機材 : 漏出したものをすくいとり, または掃き集めて紙袋またはドラム等に回収する。
少量の場合は, 電気掃除機, ほうき等で掃き集める。
この際, 火花を発生しない安全な工具を使用する。

7. 取り扱い及び保管上の注意

取り扱い

技術的対策

- : 取扱い場所は換気を良くし, その周辺での火気, スパーク, 高温物の使用は禁止する。

7-1<GF強化,難燃>, P080117J, 2013年3月11日

機器類は防爆構造の物を用い, 静電気対策を行う。

吸入, 皮膚への接触を防ぎ, 又, 目に入らないように適切な保護具を着用する。

取扱いは換気の良い場所で行い, 粉塵が発生しないようにする。

取扱い場所の近くには, 手洗い, 洗眼などの設備を設け,

取扱い後に, 手, 顔などをよく洗う。

局所排気・全体換気 : 取扱う場合は, 局所排気内, あるいは全体換気の設備のある場所で行う。

安全取扱い注意事項 : すべての安全注意を読み, 理解するまで取り扱わない, 静電気放電に対する予防措置を構ずること。

みだりに粉塵を発散させない,

発散した粉塵を吸い込まないようにする。

保管

技術的対策 : 保管場所は耐火構造とし, 屋根を不燃材料で作り, 天井を設けない,

保管場所の床は, 床面に水が浸入/浸透しない構造とする。

保管場所には, 必要な採光, 照明及び換気の設備を設ける。

適切な保管条件 : 直射日光を避け, 換気の良い暗所に保管する。

熱, 火花, 裸火のような着火源から離して保管する。

静電気対策のために, 容器及び受器を接地する。

施錠して保管すること。

法規に規定された基準に従って保管する。

混触危険物質 : 知見なし

安全な容器包装材料 : 吸湿性を有するため, 7μm内袋のクラフト紙袋を使用する。

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策 : 取扱いについては, 全体換気装置を設置した場所で行う。密閉された装置, 機器又は局所排気装置を使用しなければ取扱ってはならない。

取扱い場所の近くに, 目の洗浄及び身体洗浄のための設備を設置する。

管理濃度 : 未設定

許容濃度

<ガラス繊維>

日本産業衛生学会 : ガラス長繊維 1繊維/mL (2011)

ACGIH : ガラス長繊維

TWA 呼吸性繊維 1繊維/cc (2011)

吸入性画分 5 mg/m³ (2011)

<アミン化合物>

日本産業衛生学会 : 0.1 mg/m³ (Sbとして) (2011)

ACGIH : TWA. 0.5 mg/m³ (Sbとして) (2011)

7-レン<GF強化,難燃>, P080117J, 2013年3月11日

保護具

- 呼吸器の保護具 : 防塵マスク
 手の保護具 : 保護手袋
 目の保護具 : 保護眼鏡, コーガル
 皮膚及び身体の保護具 : 安全帽, 保護服, 安全靴
 衛生対策 : この製品を使用する時は, 飲食や喫煙をしないこと。
 取扱い後は, よく手を洗うこと。

9. 物理的及び化学的性質**外観**

- 物理的状態 : 固体
 形状 : ペレット
 色 : 有色 (銘柄により異なる)
 臭い : 特異臭
 pH : 知見なし
 融点 : 310-320 °C (銘柄により異なる)¹⁾
 沸点 : 知見なし
 引火点 : > 200 °C¹⁾
 発火点 : 知見なし
 燃焼性 (固体) : 知見なし
 爆発特性
 爆発限界 : 知見なし
 蒸気圧 : 知見なし
 蒸気密度 : 知見なし
 蒸発速度 : 知見なし
 比重 : 1.30 - 1.80 (4 °C)¹⁾
 溶解性 : 水に不溶。¹⁾
 オクタンル/水分係数 : 知見なし
 分解温度 : 知見なし

10. 安定性及び反応性

- 安定性 : 通常の手扱い条件下では安定である。
 危険有害反応可能性 : 知見なし
 避けるべき条件 : 高温, 空気, 日光
 混触危険物質 : 知見なし
 危険有害な分解生成物 : 窒素酸化物, 臭化水素, 酸化アンチモン, 一酸化炭素, 二酸化炭素

11. 有害性情報

- 急性毒性 : 経口 LD₅₀ > 5,000 mg/kg (計算値) [区分外]^{1), 2), 3), 4)}
 経皮 LD₅₀ > 5,000 mg/kg (計算値) [区分外]^{1), 2), 3), 4)}
 吸入 知見なし [分類できない]
 皮膚腐食性・刺激性 : [分類できない]^{1), 2), 3), 4)}

7-1<GF強化,難燃>, P080117J, 2013年3月11日

眼に対する重篤な損傷・眼刺激性

: [区分2] ^{1), 2), 3), 4)}

呼吸器感受性 : 知見なし [分類できない]

皮膚感受性 : 知見なし [分類できない]

生殖細胞変異原性 : 知見なし [分類できない]

発がん性 : [区分2] ^{1), 2), 3), 4)}

生殖毒性 : 知見なし [分類できない]

特定標的臓器/全身毒性

単回暴露 : [区分3 (気道刺激性)] ^{1), 2), 3), 4)}反復暴露 : [区分2 (肺, 心血管系)] ^{1), 2), 3), 4)}

吸引性呼吸器有害性 : 知見なし [分類できない]

<上記, GHS分類の区分判定を実施した際の注意点>

注意1. ポリアミド樹脂については, 経口及び経皮急性毒性値を∞とし, 他項目は未知とした。

注意2. アンチモン系難燃剤のGHS分類は, 政府公表結果を採用して, 評価した。

注意3. ガラス繊維, 臭素系難燃剤及びその他のGHS分類は, 文献調査を行い評価した。

<ガラス繊維>

皮膚腐食性・刺激性 : 軽度³⁾眼に対する重篤な損傷・眼刺激性
: 軽度³⁾発がん性 : IARC グループ 3
日本産業衛生学会 未設定

特定標的臓器/全身毒性

単回暴露 : 皮膚, 目, 鼻を刺激し, 呼吸困難になることがある。³⁾

<臭素系難燃剤>

急性毒性 : 経口 ラット LD₅₀ > 5,000 mg/kg⁴⁾
経皮 ラット LD₅₀ > 15,000 mg/kg⁴⁾皮膚腐食性・刺激性 : 弱⁴⁾ 軽度⁴⁾眼に対する重篤な損傷・眼刺激性
: 弱⁴⁾ 軽度~中等度⁴⁾

1 2. 環境影響情報

水生環境急性有害性 : 知見なし [分類できない]

水生環境慢性有害性 : 知見なし [分類できない]

<上記, GHS分類の区分判定を実施した際の注意点>

注意1. ポリアミド樹脂については, 急性毒性値を∞とし, 慢性毒性は未知とした。

注意2. アンチモン系難燃剤のGHS分類は, 政府公表結果を採用して, 評価した。

注意3. ガラス繊維, 臭素系難燃剤及びその他のGHS分類は, 文献調査を行い評価したが, 情報は得られなかった。

1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物 : 廃棄においては, 関連法規ならびに地方自治体の基準に従

7-レン<GF強化,難燃>, P080117J, 2013年3月11日

うこと。

都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合には、そこに委託して処理する。

廃棄処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上、処理を委託する。

燃焼処理を行う場合

- 1) 可燃性溶剤に溶解又は混合し、77ターナー及びスクラパー付きインシュレーターの中で焼却する。
- 2) 焼却室の温度は完全に分解させるために、800℃以上に保持する。
- 3) 焼却時に有毒ガス(窒素酸化物、臭化水素、酸化アンチモン)が発生するので、焼却排ガスの処理対策を構ずる。

汚染容器・包装

: 容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

空容器を廃棄する場合、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国際規制

- 国連分類 : 国連定義の危険物に該当しない。
 海洋汚染物質 : 非該当

国内規制

- 陸上輸送 : 規制なし
 海上輸送 : 規制なし
 航空輸送 : 規制なし

輸送の特定の安全対策及び条件

: 有害性があるので、適切な保護具を使用し、目に入れたり粉塵を吸収しないこと。

輸送前に容器の破損、腐食、漏れ等がないことを確認する。
 転倒、落下、破損がないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。

火気注意。

該当法令に従い、包装、表示、輸送を行う。

移送時にエアカート[®]の保持が必要。

応急措置指針番号

: 171

15. 適用法令

- 労働安全衛生法 : 名称等を通知すべき危険物及び有害物(法57条の2, 施行令第18条の2 別表第9) [アンチモン及びその化合物]
 化学物質管理促進法 : 第1種指定化学物質(法第2条第2項, 施行令第1条別表第1) [31号 アンチモン及びその化合物]
 大気汚染防止法 : 有害大気汚染物質(法第2条第13項, 環境庁通知)
 労働基準法 : 疾病化学物質(法第75条第2項, 施行規則第35条・別表第

7-11<GF強化,難燃>, P080117J, 2013年3月11日

1の2第4号1・昭53労告36号) [アンチモン及びその化合物]

※ 食品, 医薬接触用途等の用途規制に関しては, 別途御相談下さい。

16. その他の情報

引用文献

- 1) 自社データ
- 2) 三省告示(厚生労働省, 経済産業省, 環境省 GHS 関係省庁連絡会議, 2007)
- 3) NIOSH Pocket Guide (2007)
- 4) NICNAS Priority Existing Chemical Assessment Report No.20 (2001)

<記載内容について>

記載内容については現時点で入手した資料に基づいて作成しておりますが, 記載のデータ及び評価については必ずしも十分ではありませんので, 取り扱いには注意して下さい。なお, 注意事項等については通常の取り扱いを対象にしたものですので, 特別な取り扱いをする場合には, さらに用途・用法に適した安全対策を実施の上, お取り扱い願います。

7-PP(GF強化, 難燃), P080117J, 2013年3月11日

表. 本MSDSに該当する7-PPのグレード

銘柄名	外観	融点	法規対象物質	対象法規政令番号	含有量 (%)
CH230N	淡黄色ペレット	310 °C	アジモン化合物	PRTR 法 I -031 安衛法	2.9
CH230NC	茶色ペレット	310 °C	アジモン化合物	PRTR 法 I -031 安衛法	2.9
CH230NS	淡黄色ペレット	310 °C	アジモン化合物	PRTR 法 I -031 安衛法	2.9
C215N	淡黄色ペレット	310 °C	アジモン化合物	PRTR 法 I -031 安衛法	5.8
CH230NH	灰色ペレット	310 °C	アジモン化合物	PRTR 法 I -031 安衛法	4.0
CH230NR	赤色ペレット	310 °C	アジモン化合物	PRTR 法 I -031 安衛法	2.9
C430N	淡黄色ペレット	310 °C	アジモン化合物	PRTR 法 I -031 安衛法	2.9
E430N	淡黄色ペレット	320 °C	アジモン化合物	PRTR 法 I -031 安衛法	4.1
E430N(T5)	淡黄色ペレット	320 °C	アジモン化合物	PRTR 法 I -031 安衛法	2.0
E430NHS	灰色ペレット	320 °C	アジモン化合物	PRTR 法 I -031 安衛法	3.9
E430NHS(J)	灰色ペレット	320 °C	アジモン化合物	PRTR 法 I -031 安衛法	2.0
E430NS	淡黄色ペレット	320 °C	アジモン化合物	PRTR 法 I -031 安衛法	4.1
E430NS(J)	淡黄色ペレット	320 °C	アジモン化合物	PRTR 法 I -031 安衛法	2.0
E440N	淡黄色ペレット	320 °C	アジモン化合物	PRTR 法 I -031 安衛法	1.8
E440NA	青色ペレット	320 °C	アジモン化合物	PRTR 法 I -031 安衛法	1.7
E630N	淡黄色ペレット	320 °C	アジモン化合物	PRTR 法 I -031 安衛法	2.0
E630NA	青色ペレット	320 °C	アジモン化合物	PRTR 法 I -031 安衛法	2.0
E630NR	赤色ペレット	320 °C	アジモン化合物	PRTR 法 I -031 安衛法	2.0